



## 命の授業



助産師の吉岡先生を講師にお迎えして、命の授業を行いました。

この授業は、健康教育の一環として、高学年を対象に実施されるもので、思春期にさしかかる時期の子どもたちが「性・命の大切さ」を学ぶことで、自他を大切にし、よりよく生きようとする心を養うことをねらいとしています。

授業では、まず三億個もの精子の一つが卵子と結びついて、受精卵ができることを教えていただきました。子どもたちは、針の先ほどの穴を見て、実際の大きさに驚いていました。また受精卵が細胞分裂を繰り返して、ヒトの姿に変わっていく過程を学びました。そしてお母さんのお腹の中でへその緒を通して酸素や栄養をもらいながら成長し、四十週ほど経つと、産

文責 本宮小校長 佐久間仁

道を通って生まれてくることを知りました。

子どもたちからは、

「三億個の中から選ばれた精子だけが受精することに驚いた」

「大変な思いをして生んでくれたことに感謝したい」

など、感想が聞かれました。

両親や遠い祖先から続く命のリレーを大切に、未来につなげてほしいと思います。



命のリレー

## メディア

### コントロール力の育成

第三回学校運営協議会を開催しました。委員の皆様が来校し、授業参観（施設見学）と協議（熟議）を行いました。協議では、「メディアアカウントロール力の育成」をテーマに話し合いました。

#### 《校長の説明（概要）》

#### ○スマホが脳に与える影響

・スマホを全く使用しないグループとアプリを長時間使うグループでは学力テストで大きな差が出た。



・タブレットを毎日使いこんでいる子は脳の体積増加がゼロになる。  
・音楽や動画などを視聴しながら学習すると、脳に悪影響を与える。

#### ○ネット、SNS利用の実態

・三時間以上利用している子どもが増加傾向にある。利用の長時間化に伴う生活習慣の乱れが心配。  
・フィルタリング機能を設定していない家庭が全体の三分の一ほど。  
・ルールを守らない子ども全体の三分の一ほどみられる。家庭内での定期的な話し合いとフィルタリングの確実な設定が望まれる。  
・保護者自身が積極的に学び、適切なインターネット利用を心がけ、よい手本となる必要がある。

#### ○情報モラルをどう教えるか

・一人一台端末時代を迎え、今後は「トラブル」ベースの情報モラル教育だけでなく、「活用」ベースの情報モラル教育も大切。

・例えば、検索する場合、得られた情報は確かなものか、引用する場、著作権は大丈夫か、発信者は、誤解を招いたり人を傷つけたりする表現はないかなどに気を付けなければならない。

#### 《協議（熟議）から》

・ルールが肝心。はじめにメディアを使うときのルールを決めることが大切。同時に、破った場合のルールも決めておくことよい。



・ルールを破ったときのリスクを知る必要がある。どんなリスクがあるか親子で知る機会がほしい。

・子どもがしていることについて親の目が行き届いていない現状があると思う。子どもがしていることを親は把握する必要がある。

・情報モラルに関しては、押さえるべきことが多すぎる。（犯罪、脳への影響など）その結果、対応がおざなりになってしまいがちだ。

・家庭ではどんなルールを守るのか考える。学校では、さわやか調べなどで守るべきことをいくつかにしぼり込むなどの工夫が必要。

・メディアはただなんとなく使ってしまう依存性がある。決まりをつくって制限すると、より強い刺激を求めたり、大人に隠れてやってしまったりする面もある。

・子どもが守れるルールをつくり、「今日できた」とほめてあげるなど、大人と子どもがコミュニケーションを図ることが大切。



熱心な話し合い

※インフルエンザが流行しています。週末の過ごし方にご留意ください。